上演⑨　北陸高校「0.14の正しい使い方」

円周率3.14がゆとり教育であれば3。0.14の切り捨てられた世間に必要とされないと感じている人たちが同じく必要とされていない人たちを救おうとしていく。0.14の着目点が非常に面白く、世界を変える（変革）のために学校をやめるという選択をしたセイヤと学校に残ることで変革をする選択をした小野。だけどひとりではないというのはこの作品の切り捨てないというテーマに合っていて非常に良かったと思います。

この作品の超目的が「聖哉が切り捨てられたと感じている人と世界を変えていくこと」だとした場合、冒頭、小野がいじめにあっているところから（実際に蹴りが入っているような描写のシーンがあった後で）雑用を熊田が冗談で蹴るシーンがどのような効果を生むのか。

小野をジャージとあだ名で呼んだり、嫌がっている古橋のサンタへの手紙を無理矢理読んで泣かせてしまうなど、今だといじりではなくいじめているような印象に私は感じてしまう部分がありました。これはダメということではありません。ただ表現は自由であるのと同時に心を癒やす薬にもなるし凶器にもなるということを理解し上で客観的に作品を見つめ、選択をすることが大事なことの一つではないかなと思うのです。この作品はどういう作品にするのか決め、（超目的）それに即してどういったアプローチが効果的にうつるのか客観的な目線を持つことでより作品理解が深まると思いました。また舞台は観客がいますよね。これは無視はできないですよね。観客は今を生きているので考え方もその時代によって変化していくものだと思います。だからこそ、今を意識するということは作品を作る上で考えないといけないことの1つかもしれません。

俳優についてですがそれぞれ個性的で魅力的でした。小野役の俳優さんが舞台での立ち振る舞いがとてもよかった。古橋に寄り添うシーンがとても好感を持ちました。聖哉くんは救世主って引っ張るだけではなくて後ろから優しく支えるような人柄の良さが出ていました。熊田くんは一見、乱暴のように見えますが場を明るくできる起爆剤のような存在感がありました。古橋さんはおっとりとした感じが話し方からよく伝わってきました。

場転あかりでも演技を続けていて舞台上で素に戻ることがなかったのかとても好感を持ちました。またアクティングエリアを余すこと無く使っていてよかったと思います。

それぞれの個性を生かしたまま、ポイントでどの演技だとシーンや作品全体に取って効果的になるのか。考えるのも役づくりという点で良いのかもしれません。